

平成24年度現地意見交換会―列状間伐について― (概要)

平成24年度現地意見交換会においては、参加者より以下のように意見交換が行われました。なお、事実確認等のご発言については、省略させていただいております。

1 検討テーマ

列状間伐の方法について

2 日時

平成24年6月28日

3 場所

石狩森林管理署管内 千歳森林事務所 5394 林班に小班
恵庭森林事務所 5139 林班ろ小班

4 意見交換の主な内容

- 列状間伐には①生産性・効率性がよい、②選木の技術を要さない、③列ができることで高性能林業機械が入りやすい、④残存木を傷つけない、というメリットがある。
- 今日提案された「定性間伐を検討する条件」は妥当である。ただし、この条件で絶対に列状間伐してはいけないという意味ではなく、効率性を重視した最適な間伐方法を選択することが重要。
- 機械作業を考えると、伐採幅は5m程度必要ではないか。
- 伐採幅については、保安林における制限も考慮しておおむね5年以内にうっ閉するよう4m程度が妥当と考えられる。
- 残存幅については、あまり大きく取らない方が間伐効果は高い。基本的に1伐2残程度のイメージで進めればよいのではないか。それより残存幅が広くならざるを得ない場合は林況に合わせてフレキシブルに間伐頻度や伐採率等による調整をすることが必要。
- 列状間伐は斜面方向上下に列を入れるのが基本。斜めに列を入れる場合、横方向10度以上に傾くと高性能林業機械での作業は困難。
- 2回目も列状間伐を実施するとしても、将来どういう森にもっていくかを意識して方法を模索すべき。
- 列状間伐は若齢林では有効だが、材価が高くなったときに列状間伐を行うと悪い木も混ざってしまうという問題がある。2回目は定性間伐により残存列の不良木を取り除いた方がよいのでは。
- 2回目までは列状間伐を基本とし、3回目以降に定性間伐の併用も考えられるのではないか。
- 国有林のマネジメントの現状やあり方も念頭に置きながら間伐等の技術論議をする

必要がある。

- 国有林で一所懸命森林づくりに取り組んでいる現場を見て、消費者の立場から木材消費をもっと進めていく必要があると実感。